

授業科目 成人言語障害学演習 II

【担当教員名】 渋谷直樹	対象学年	3	対象学科	言語
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【一般目標：G I O】

失語を対象にした言語治療の具体的方法を習得して実践するため、種々の技法を実習する。

【行動目標：S B O】

1. 失語の評価結果を基にして、言語治療計画が立案できる。
2. 代表的な言語治療（訓練）技法を模擬的に実施できる。
3. 言語訓練教材を言語症状に合わせて作成できる。
4. 言語治療報告書を用途に応じて作成できる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	具体的な言語治療計画の例を分析する。	1	講義、
2	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。 刺激・促通法など	2	講義、実習
3	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。 認知神経心理学的アプローチなど	2	講義・実習
4	代表的な言語訓練技法を模擬的に実施する。 実用・グループ訓練など	2	講義、実習
5	言語訓練教材を開発する。	3	講義・実習・宿題
6	教材を使用して模擬的に訓練を実施する。	3	講義・実習
7	具体的な言語治療報告書を分析し、模擬的に報告書を書く。	4	講義・実習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	脳卒中後のコミュニケーション障害	竹内愛子・河内十郎編著	協同医書出版社	1995年、5600円 ISBN:4-7639-3009-5
参考書	言語聴覚士のための失語症学	波多野和夫他	医歯薬出版	2002年、5000円 ISBN:4-263-21266-5
その他の資料	プリント			

【評価方法】 授業態度と実技試験により総合的に評価する。	【履修上の留意点】
---------------------------------	-----------